

## 火山工学研究小委員会 第10期 H30(2018)年6月～H32(2020)年5月 委員公募について

平成2(1990)年11月17日198年ぶりに噴火した雲仙普賢岳の噴火災害を契機に、土木学会地盤工学委員会に設置された本小委員会は、2000年有珠山緊急調査団の派遣など、「火山工学」の確立を目指して活動を続けてきました。

昨今、熊本県阿蘇地方での地震災害と噴火災害に代表される複合災害を経験し、土木学会は、土木工学、砂防学、地震学、火山学、災害情報学など学際的に広範囲な視点から災害を鳥瞰し、如何に災害を軽減するかが問われている中、本小委員会は火山工学研究活動の先端に立って活動を続けています。

平成30年度から第10期の活動を始めるにあたり、委員を公募します。本小委員会での活動を希望される方は、自薦・他薦を問わず、以下の内容を記載の上、メールで申し込んでください。任期は平成30年6月から平成32年5月までの2年間です。

1. 氏名（ふりがな）
2. 所属機関・部署
3. 所属先住所・電話・Fax・e-mail
4. 専門分野（火山災害に限らず）
5. 火山工学研究小委員会で実施してみたいこと（任意）

申し込み先：今井 博 [h.imai@suncoh.co.jp](mailto:h.imai@suncoh.co.jp)  
稲垣秀輝 [inagaki@kankyo-c.com](mailto:inagaki@kankyo-c.com)  
応募者の確認と誤認防止のため、上記2名宛に同時発信してください。  
締め切り：平成30年5月31日まで

### 参考：

過去におもな研究活動として検討した項目

○ 噴火災害、火山地域の土砂災害等の事例調査・研究  
過去に桜島、雲仙普賢岳、霧島新燃岳、阿蘇山、三宅島、伊豆大島、有珠山、メラピ、ピナツボ等の調査を実施した。

○ 火山地域の土砂移動メカニズムの調査・研究  
火山泥流の発生メカニズム、火山地域の崩壊・土石流発達メカニズムなど  
○ 火山地域の土砂災害に対する工学的対応  
土砂災害に対する新工法、噴石シェルター構造、建造物に対する降灰の影響など

○ 火山災害の社会的アプローチ  
災害情報、防災計画、ハザードマップの表現・周知など  
○ 火山の恵みと利用

風評被害を回避する火山リゾートのあり方、火山噴出物の有効利用など

○ 溶岩流・土石流・火山泥流のダイナミクスと被害予測

実測例の調査と数値モデルによる実験の可能性

現在の活動（第9期～第10期に継続）グループ活動

○ ハザードマップの見直し（リアルタイム・ハザードマップに向けて）  
ハザードマップの啓蒙・更新の提案、リアルタイム・ハザードマップの課題と検討

○ 火山噴火からの避難（シェルターによる対策）  
目的に応じたシェルターの位置や構築機材・強度の検討と提案

○ 啓蒙書の執筆と販売計画  
「火山工学」普及目的と減災啓蒙活動

○ 委員会が刊本した「火山工学入門 応用編」を基礎とした九州地区でのシンポジウム計画  
火山工学の研究公表

○ 火山工学の魅力あるHPの更新  
火山工学の研究公表

○ 新規計画案